

# 2022年度 千葉明德中学校入学試験（適性検査型入試）

2022年1月21日

## 適性検査ⅢB（本校会場）

### 注意事項<sup>じこう</sup>

始まりの指示があるまで、下の注意をよく読んでおくこと。

1. 始まりの指示があるまで問題用紙や解答用紙に手をふれてはいけません。
2. 問題用紙は1～6ページ、解答用紙は1枚です。
3. 試験時間は45分間です。
4. 問題は ㊦ から ㊧ まであります。
5. 問題の内容についての質問はできません。
6. 携帯電話、電卓、計算機能付き時計など電子機器類を使用してはいけません。
7. 困ったこと（筆記用具を落としたときなど）があったら、だまって手をあげなさい。
8. 持ち物を貸したり、借りたりしてはいけません。
9. 答えはすべて、解答用紙に記入しなさい。
10. 終わりの指示があったら、すぐに筆記用具を置き、解答用紙を問題用紙の上に置きなさい。

一

放送で聞き取った内容について、次の問いに答えなさい。

(1) 島信一朗しましんいちろうさんは、視覚障害者であるブラインドランナーが、さまざまな選手といっしょに走ると、気持ちに変化が生まれると述べています。このことを、次のようにまとめた時、①に入る適切な語を、**五字以上十字以内**で答えなさい。

色々なランナーたちが区別なく混ざり合いながら、同じ目標に向かって走る。

←

( ) ① ( ) から、あきらめずに走り続けることができる。

(2) パラリンピックのランナーとオリンピックのランナーが、同じ日にいっしょに走ると、どのようなことが起きると述べられていますか。次の、②に入る適切な語を、**十二字以内**で答えなさい。

パラリンピックのランナーとオリンピックのランナーが同じ日に走る。



選手の励みと、沿道で声援を送る人の感動。



インクルージョンによる多様性の調和。



人々は、( ② ) に気づかされる。

## 二

次の文章は、障害のある子もいない子も同じ場で学び合う、大阪市立大空小学校の校長先生 木村 泰子さんと、長年、発達障害のある人の支援と教育活動に取り組んでいる高山 恵子さんとの対談です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

高山―「自分の学校です」という言葉、素敵ですね。それって、「居場所がある」ということで、学校がⅠ安全基地になっていますね。それは本当に大切なことなんですよ。子どもは、家庭・学校・地域のどこかに居場所があれば、自殺したいなんて思わず、安心して育っていくんですよ。

木村―すごく、わかります。

高山―子どもは、怖いものがあつた時や嫌なことがあつた時、誰かが「安全基地」になっていれば、そこで癒やされて、また外に元気に飛び出していくことができます。この「安全基地」や「安心感の輪」が大切ですね。

「安心感の輪」は、安心感を得ることだけが目的ではありません。安心したら、また好奇心をもって外界に出る。そして、失敗したら安全基地に戻る、そしてまた外界に出る、というサイクルが大切なのです。

家庭が「安全基地」となって、幼児期に「安心感の輪」を何回も体験できるといいんですが、そんな状況でない場合も最近が増えていきます。子どもにとって特定の大人であれば、親以外の誰か、例えば祖父母や先生、支援者が安全基地になってあげれば大丈夫なんです。

木村―今、学校現場で言われているところのⅡ「チーム力で育てる！」ということですね。

核家族で、親自身が汲々と暮らしていらつしやるご家庭もあるでしょう。家庭が、子どもにとっての安全基地にならない場合も多いのが現実です。だから、今、家庭だけに安全基地を求めていると、子どもにとっては過酷な状況になってしまうんです。そんな時は、学校が安全基地の機能を果たせばよいと私は思っています。

高山―親も不安定になることも多いので。安全基地はたくさんあったほうがいいですね。

木村―安全基地は、誰でもいいんです。私は関西人なので、地域の方々を「じいちゃん」「ばあちゃん」と呼びびしているんですけど（笑）、先生たちだけでなく、よその親、よその「おっちゃん」「おばちゃん」「じいちゃん」「ばあちゃん」など、いろんな人でいいと思うのです。学校にいる、「自分がいいな」と思った大人を子どもが選んで、「ねえ、ねえ。あのさ」と言える。学校がそういう場所であることが大切です。大空の子どもたちは、学校がそんな場なので、安心して学校に来ることができたのです。

（木村泰子・高山恵子『みんなの学校』から社会を変える）

〔注〕1 サイクル―繰り返しかえの運動。

2 汲々と―何かに精一杯せいいつぱいで、他に余裕よゆうがないこと。

〔1〕傍線部Ⅰ「安全基地」は、子どもにとってどのようなものを、二つ答えなさい。

〔2〕傍線部Ⅱ『チーム力で育てろ！』とは、どういふことなのかを答えなさい。

### 三

次の文章は、イギリスのダビッド幼年学校に通うナターシャさんが、同じクラスの友だちで、脳性マヒで声を出してしゃべることができないウイリアムくんのことについて述べた文章です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

ナターシャは、ウイリアムが望んでいることを読み取ることができているのです。彼女は彼の目の動きを見ます。ナターシャのママは、こう言います。「ウイリアムは、ナターシャにとって、ずっとすてきな存在なの。最初は彼のことを怖がったんだけど、今はいちばん親しい友だちの一人です。彼は危険な存在ではなく、異なるニーズを持った子どもなのだとわかったのね。それがナターシャの自己尊重と自信を増して、『ひとに与えること』ができるようになったの。ナターシャは、ウイリアムが学校に来るって知ったら、いつもより活発になるの。朝起きて、『今日はウイリアムの日だね!』って言うのよ。ウイリアムが学校に来る日は、たとえ自分が病気で、絶対に学校を休みたいくないって。二人の間には、特別の友情があるのね」

子どもたちは、友だちを持つことは学校でいちばん大切なことだと、いつも言います。いわゆる「普通」の子どもたちと「普通でない」といわれる子どもたちとの間の友情は、すべての人に、人間であるということについて、私たちが皆お互いに必要としあっており、互いに与え合うことができる贈り物をみんなが持っているということについて、大切なレッスンを教えてくれます。

「遊び時間でいちばん楽しいのは、ウイリアムの車椅子を、小高くなったところに押し込んで、とつても早く下りていくの—— 私たちみんな、それにひっ捕まって駆け下りていくのよ。手は離せないの。だって、車椅子からウイリアムが転げ落ちてけがをしたら、大変なもの。ウイリアムが怖がっちゃいけないから、みんなですっかり車椅子を握っているのよ。ウイリアムと一緒に本を読むのも楽しいわ。本を二冊差し出すと、ウイリアムは読みたいほうに目を向けるから、私たちは彼の目の動きを追うの。キッパの本が好きね。ルーシーとヴィタが本を支えて、頁をめくるの。ナターシャが言葉を読むのよ。ウイリアムは車椅子から出ると、床に寝て活動に参加するから、私たちもごろりと一緒に寝転ぶの。ウイリアムがソフトプレイコーナーのほうに行くと、私たちもそ

つちに行ってごろごろ一緒にころがり回るの。ウィリアムがクラスにいて一番すてきなのは、<sup>キ</sup>ハグしてぎゅっと抱きしめたりすることよ」

(Micheline Mason, Jackie Dearden 著、<sup>とよたかあきえ</sup>豊高明枝訳『インクルーシブ教育の輝ける实例から』)

(注) 1 ハグする―抱き合う。

(1) ナターシャさんが、ウィリアムくんとの学校生活で学んだことは、どのようなことですか。本文の言葉を使って、句読点を含めて**五十字以内**で答えなさい。

(2) ①の聞き取りと、文章②・③の読み取りを踏まえて、あなたは、「多様性を認め合う共生社会をどのように築くべきか」というテーマで発表をすることになりました。そこで、次の**条件**にしたがって、発表の内容を**二十行以内**で答えなさい。

《条件》

- ① **三段落構成**にまとめて書くこと。
- ② **第一段落**では、共生社会の実現のための課題を述べること。
- ③ **第二段落**では、共生社会において、受け入れる人、受け入れられる人、それぞれの立場について述べること。
- ④ **第三段落**では、第一段落と第二段落を踏まえて、共生社会とはどのような社会なのかを述べること。